



2020 年 4 月 23 日
飯野海運株式会社

Equinor ASA 社と新造 VLGC 定期用船契約を締結
～当社初の 2 元燃料主機関搭載 VLGC を建造～

飯野海運株式会社（以下、当社）は川崎重工業株式会社坂出工場にて 84,000 m³型新造 VLGC（Very Large Gas Carrier: 大型 LPG 外航船）1 隻を建造します。2021 年の竣工後に、Equinor ASA 社*1（以下、「Equinor 社」）との定期用船契約に本船を投入します。本船は適合油などの燃料油だけでなく、LPG も燃料として使用できるエンジン（2 元燃料主機関）を搭載した当社初の VLGC となります。

当社は国内外の大手荷主との中長期の定期用船契約を礎として、長年に渡り LPG 輸送に従事してきました。Equinor 社との新たな定期用船契約に環境配慮型の本新鋭船を投入し同社との関係を強化します。当社は今後も環境対応に積極的な国内外の重要顧客とのパートナーシップを強化していきます。

当社では環境への配慮を経営理念として掲げ、次世代燃料船実用化に向けた取り組み*2を積極的に進めています。本船が燃料として使用する LPG は、二酸化炭素（CO₂）、硫黄酸化物（SO_x）及び窒素酸化物（NO_x）排出を従来の重油と比較して大幅な削減が可能であり、安全且つ環境負荷の少ないクリーンなエネルギーとなります。2020 年 1 月に始まった硫黄酸化物の排出規制だけでなく、段階的に規制が強化されている二酸化炭素排出量規制に対しても 2022 年にさらに強化される EEDI*3 フェーズ 3 に適応しています。

当社は、VLGC の長年の運航や管理で培ってきた経験を生かし安定輸送・安全運航に努めるとともに、環境への負荷を低減する技術を積極的に導入し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



*¹Equinor ASA 社について：

ノルウェー・スタヴァンゲルに本社を置く国際エネルギー企業。石油・ガスの主要拠点をはじめ世界 30 か国以上に拠点を持ち、天然ガスなどのエネルギーや石油製品の生産および販売を手掛けています。

*²次世代燃料船実用化に向けた当社の取り組みについて：

メタノールを燃料として使用する当社初の 2 元燃料主機関を搭載するメタノール船“CREOLE SUN”が 2019 年 12 月に竣工しています。詳細は 2019 年 12 月 23 日付けプレスリリース『新造メタノール船竣工 ～当社初の 2 元燃料主機関搭載船～』

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS00371/42282e93/f28e/43d8/8325/0245d2fecf8f/20191220154410378s.pdf>

をご参照ください。

*³EEDI (Energy Efficiency Design Index) 規制について：

1 トンの貨物を 1 マイル運ぶ際に排出される CO₂ のグラム数として定義されるエネルギー効率設計指標(EEDI)を用いて新造船の省エネ性能の規制値への適合を強制する国際規制。EEDI 規制値は建造契約日と引渡日に応じて段階的に強化されます。大型 LPG 外航船では、2022 年以降の建造契約船からフェーズ 3（基準値から 30%の CO₂ 削減）が要求されます。

<本件に関するお問い合わせ先>

新型コロナウイルスの感染拡大防止と従業員の安全確保のため在宅勤務を実施しており、電話でのお問い合わせには対応しかねますので、メールでのお問い合わせをお願いいたします。

飯野海運ガス船部 LPG 船課：lpg@ex.iino.co.jp

以上